

クラス番号	311	担当教員名	角崎洋平
		他専修学生受入上限人数	2名
テーマ	正義や不正義を真剣に考える——福祉への規範的アプローチ		
著書・論文	論文：「社会福祉学とロールズ：脆弱性を抱えるすべての人を包摂する正義の理論の構築にむけて」 （『ロールズを読む』（ナカニシヤ出版）所集）、2018		
研究課題等	「平等主義の時間射程：デニス・マッカーリーの「いつの平等か」論の意義と限界」、2018		
	「福祉的貸付の規範理論：金融ウェルビーイングと社会正義の観点から」、2020		
研究課題①生活困窮者等を対象とした家計改善支援、貸付支援、金融包摂の在り方			
②「自己責任論に基づく福祉否定」と「自己責任論を全否定する福祉擁護」の両者の超克			

ゼミナール概要

キーワード：不正義、正義、規範的アプローチ、価値観、政策規範

■ ゼミのテーマ...理不尽と不正義（そして正義）

私たちが生きる世界にはいくつもの理不尽や不正義があります。貧困（こどもの貧困、非正規労働者の困窮）、暴力（家庭内暴力、児童虐待、戦争）、差別（障害者差別、女性差別、外国人差別）、家族に負わされるケア負担（ヤングケアラー、老老介護、介護離職）、高い教育費、不公平な税制... などなど。皆さん自身にとっても、「何かおかしい」「何とかしないとイケないのではないか」と考えるような理不尽や不正義が、たくさんあると思います。

このゼミでは、ゼミ生一人ひとりの「何かおかしい」「何とかしたい」に向き合います。それぞれのゼミ生が「おかしい」「なんとかしたい」と考えていることについて、「どこがおかしいのか」、「なぜおかしいといえるのか」、「ではどうあるべきなのか」をみんなで考えていきます（福祉）に関することでもなくてもかまいません。ひいてはゼミ生みんなで、「何が不正義といえるのか」、そして「正義とは何か」を議論していきたいと考えています。

■ ゼミの研究手法...規範的アプローチ

1・2年生のときに多くの行政専修学生が履修したであろう角崎の授業（福祉行政と経済、経済政策論、現代生活論）では、経済学の議論をベースに「社会はどうなっているのか」という実態の説明に力をいれてきました（事実説明（positive）アプローチ）。そのため「では、社会はどうあるべきなのか」まではお話できませんでしたし、皆さんの意見も十分に聞くことができませんでした。このゼミでは、その「どうあるべきか」を正面から扱います。こうした研究方法を「規範的（normative）アプローチ」といいます。ゼミでは、規範的アプローチによって、それぞれの考えの違いを「価値観の違い」で終わらせるのではなく、価値観の「違い」のポイントを整理し、建設的に議論をしていくことを学びます。こうした学びから得た力は、実際に市民の合意（納得）をとりながら政策形成を進めるためにも必要になってくるので、公務員を目指す人にとっても糧となるでしょう。

■ ゼミの進め方

まずは規範的アプローチの研究手法や議論の方法を学びます。3 年末には、各自が、自分の考える「何かおかしい」「何とかしたい」と考える問題（社会課題）を一つとりあげ、レポートを書いてもらいます。4 年次にはそれをベースに早期に卒論を書き上げます。希望あれば適宜フィールドワーク・審議会傍聴などを実施します。なお本ゼミ所属の学生は、3 年次に福祉財政論・福祉政策論を履修することを原則とします。

担当教員からのメッセージ



何かに不満を抱えている人、理不尽だと思っていることがある人、そしてその不満・理不尽に向きあって考えようとしている人を歓迎します。エントリーシートではなんでもいいので、不満・理不尽に思っていることを書いてみてください。社会とか政治とか経済とかでもいいですし、演習概要本文に書いた貧困とか差別についてもよいです。「福祉」についての不満でもよいです。大学とか税金とかバイト（労働）とか家族とか、身近なことでもよいです。ゼミでは、みなさんが、そうした不満・理不尽を言語化したり、一歩引いて客観的に分析したりする手伝いをしたいと思っています。（だからいま時点ではうまく文章を書けなくてもよいです）